



サハリン・ロシア極東地域、ビジネス交流モニターツアー参加者が本学を視察しました。[関連記事7ページ]

スクールソーシャルワーカーの養成を始めます



看護福祉学部 臨床福祉学科長 石川 秀也

児童・生徒のいじめ、不登校、暴力行為さらには非行等の子どもの問題行動や児童虐待などへの対応において、教育と福祉の連携の重要性が叫ばれています。これまでこうした問題に対して、「スクールカウンセラー(SC)」が有意義な働きをされていますが、SCはカウンセリング、すなわち心理的な葛藤を治療行為によって改善・解決していく心理の専門家です。これに対して、子どもに影響を及ぼしている家庭、学校、友人関係、地域等の環境改善に向けていくのが「スクールソーシャルワーカー(SSWr)」です。

SSWrは、アメリカでは100年以上の歴史を持っていますが、わが国においては、昭和61年の埼玉県所沢市の取組みが最初といわれています。文部科学省は、平成20年度から「スクールソーシャルワーカー活用事業」による国庫補助を開始し、実施主体を都道府県、指定都市、中核市としていますが、その他の市町村が実施する場合は、都道府県からの補助を利用して実施することとされています。「スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領(平成25年4月1日/文部科学省初等中等教育局長)」によると、SSWrの職務内容として、①問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ、②関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整、③学校内におけるチーム体制の構築、支援、④保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供、⑤教職員等への研修活動、の5点を掲げています。同要領によると、SSWrの選考については、社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉に関する専門的な資格を有する人が望ましいとされていますが、現在のところSSWrが国家

資格化されているわけでもなく、確固とした資格要件が定められているわけではありません。

そこで「日本社会福祉士養成校協会」が平成21年に「スクールソーシャルワーク教育課程認定事業」を創設しました。これは、同協会がスクールソーシャルワーク(SSW)を展開するために必要となる課程の設置要件を定め、この要件を満たす課程を設置する学校を同協会がSSW教育課程として認定するもので、具体的には社会福祉士あるいは精神保健福祉士養成カリキュラムに、SSWに必要な専門科目群等を付加することによりSSW教育課程カリキュラムとみなすものです。

本学においては、従来、社会福祉士、精神保健福祉士の養成を行っておりましたので、同協会が示す必要な専門科目群(「スクールソーシャルワーク論」「同演習」「同実習指導」「同実習」と教育関連科目群(本学における教職課程科目の一部)、追加科目(従来、本学で開講している科目の一部)を付加することにより、SSW教育課程が成立することとなります。したがって、専門科目群を新たに開講することとした上で、昨年、カリキュラム案を構築して同協会に対して認定審査申請を行い、今般、認定された旨通知されましたので、平成26年度よりSSW課程を開講することとなりました。

具体的にはこれからという段階ではありますが、本学がこれまで培ってきた社会福祉教育の成果を積極的に活用することにより、社会に有用なSSWの養成に真摯に取り組んでまいりたいと存じます。

CONTENTS

スクールソーシャルワーカーの 養成を始めます	1
新任教員・昇任教員紹介 定年退職される先生からのメッセージ	2
同窓会活動状況	4
2014年度入試結果速報 「第7回日本腎臓病薬物療法学会」で、 薬学部市村助教らが優秀演題賞を受賞	6
○札幌市立高等学校との連携事業 ○札幌開成高等学校「先端科学特論」の実施 ○サハリン・ロシア極東地域、 ビジネス交流モニターツアー参加者、本学視察 ○JICA中央アジア・コーカサス研修生来学	7
私の学生時代	8
OB訪問[心理学部臨床心理学科]	9
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS EDITOR'S NOTE	10

新任教員・昇任教員紹介

新任教員

平成26年1月1日付



薬学部准教授
(生命物理学講座)

河嶋 秀和 (かしま ひでかず)

PROFILE

東京理科大学薬学部薬学科卒業。京都大学大学院薬学
研究科医療薬学専攻博士前期課程修了、博士後期課程
修了。先端医療振興財団先端医療センター研究員、京都
大学薬学部講師等を経て、本学就任。薬学博士。

昇任教員

平成26年2月1日付



薬学部准教授
(薬学教育支援室)

木村 真一 (きむら しんいち)

PROFILE

本学薬学部薬学科卒業。同大学院薬学研究科薬学専攻
修士課程修了、博士課程中途退学。本学薬学部薬理学
講座講師、薬学教育支援室講師等を経て准教授就任。薬
学博士。

Message

定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授
富樫 廣子

薬学部の中で最も“若い”病態生理学教室に教授として赴任したのが2005年4月。荷物も届いていないがらんとした教授室の扉を初めてたたいたのは“病態ゼミ”に教室配属が決まったばかりの4年生でした。34年ぶりに薬学部に戻ってきたことを実感した瞬間でした。

入学から卒業まで、5年生の実務実習、6年生の国家試験に向けての受験勉強と、折に触れて成長する学生たちの姿を目の当たりにすることは新鮮な喜びでした。私自身が学生によって、文字通り教えられ育てられてきたような気がしています。教室立ち上げの日々は楽しい思い出です。薬学部6年制施行に向けた教育負担が増すなか、研究の質を如何に維持するか頭を悩ませたこともありましたが、大学院生たちの若さを駆動力として、熱く研究を語りながら退職の日を迎えることができたのは幸せなことでした。

教授在任期間としては9年という短いものでしたが、本学とのご縁は

長く、東日本学園大学時代、当別駅から大学までバスが出ていた頃からです。ほぼ薬学部の歴史と同じということになります。その後も、本学学生たちと一緒に研究をさせていただいてきましたが、当別キャンパスからは足が遠のいていました。久しぶりに訪れた時、JR学園都市線医療大学駅がきき通路によって大学とつながっていることに驚いたことを覚えています。

時代とともに入学してくる学生の気質は変わっても、北海道医療大学を流れる校風ともいべき空気感を私は今も感じています。そんな本学の校風を大切にしつつ、これからの厳しい時代に挑戦し続けて欲しいと心から願っています。

学生との時間はとても楽しく、私を元気にしてくれました。学生コンパは皆勤賞です。お世話になりました。そして、ありがとうございました。



歯学部 教授
有末 眞

昭和49年3月東京歯科大学を卒業後、北海道大学歯学部口腔外科で17年5か月間を過ごし、北大時代の恩師である富田喜内教授からお話を戴き、平成3年9月1日付けで本学歯学部口腔外科学第二講座助教授として赴任しました。

これまで当別へは夏に一度275号線を利用し通ったことがありますが、北大で医療大への転勤の話をする時、多くの方から冬期の当別は吹雪で大学から帰れないこともあるので、食料と毛布は必需品であるといわれました。その後22年7か月間、隣の江別市から車通勤をしておりますが、幸いにも事故や車に閉じ込められたこと、そして大学から帰れなくなったこともなく無事定年を迎えることができました。それにも増して大きな喜びは、北大では数年交代で学生実習を担当しておりましたが、医療大では毎日学生さんと接し、個人的にいろいろ相談にのったり、実習終了後学生

さんと一緒に、調べごとをしたりなど多くの学生さんと親しくなったことです。特に学生さんが質問にきて、最初は自信なげであったことが、「なぜ?」、「どうして?」など質疑応答を繰り返すうち、「解った」と笑顔で眼を輝かせたときは、私も学生さんから多くの元気を戴きました。また卒業試験、それに続く国家試験にパスしその報告にきてくれて、共に万歳をしたことは本当に教師冥利につきました。この感激を与えてくれた学生さんには本当に感謝の気持ち一杯です。定年を迎え学生さんと患者さんを一緒に診たり、症例の検討、口腔外科に関する経験談等いろいろ学生さんと話すなどの機会がなくなることは寂しい限りですが、ともに過ごした学生諸君が自分の母校を誇りに思い全国で活躍されることを祈念しております。

多くの皆様にお世話になり元気に定年を迎えられることができました。ほんとうにありがとうございました。



歯学部 教授
江口 正尊

昭和五十三年三月に東京の駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻博士課程単位取得満期退学をした筆者は、若年三十歳になったばかりの同年四月に北海道白糠郡音別町中音別の東日本学園大学教養部講師として赴任しました。

白糠町から朝・昼・夕方、一日バス三本しか通わないそこには国道を挟んで山側に校舎・グラウンド・体育館・一学生寮、海側に二学生寮・教員住宅があるのみで、その場所に立った瞬間くええっ、絶句!>をしてしまいました。しかし、既にそこには薬学部四期・五期、歯学部一期の学生が全く同じ環境のもと、生活をしていたので、自ら選んだ「教師」という立場を改めて回想し、その日からくよし!自分は彼らの兄貴分として頑張るぞ!>と言い続け、先ず、野球部を結成し彼らと共に練習・試合・遠征・コンパ……、最高の思い出です。七年間はくアッ!>という間に過ぎましたが、六十五歳の今でも、音別のいろいろなことが脳裏を駆けめぐります。

昭和六十年九月、音別校舎を閉校すると同時に当別キャンパスへ移行しましたが、この頃より本学の教育上の要請を受け、医療人育成の基

盤教育、即ち、<学生力・人間力アップ!>を目指した開講科目に専門の仏教教育学を根拠にした医療倫理学・死生学・宗教学・患者学・人間学等という講義を担当させて頂き、薬学部・看護福祉学部・心理科学部・リハビリテーション科学部・歯学部、そして歯学部附属歯科衛生士専門学校の教壇に立ちました。また、平成十一年四月から同二十三年三月までの十二年間、歯学部学生部長という重責を押し、更に、平成二十二年四月から同二十四年三月までは全国私立歯科大学学生部(課)懇談会会長として数多くの諸先輩・学生にご指導・ご協力を頂きました。実は、<学生大好き人間!>を自負する根拠はここにもあります。<学生無くして教師なし!>を実感したからです。

平成六年には校名の変更もありましたが、ここ当別の北海道医療大学にて二十九年が経ち、本年三月末日をもって三十六年間に互り教鞭をとらせて頂きました本学を定年退職致します。余りに長い間多くの人々からご接化・ご法愛を頂きながらこの日を迎えられたことは身に余る光栄と申し上げるしかありません。有り難うございます。

定年退職される先生からのメッセージ



看護福祉学部 教授
野川 道子

1992年4月に本学に講師として赴任し、翌1993年4月の看護福祉学部の開設を待って看護学科、成人看護学講座に配属となり、22年間でたちました。それまでは、臨床で助産師、または看護師として働いていたので、本学が教員としてのスタートでした。

看護福祉学部1期生との出会いは鮮烈でした。彼らには先輩学生というモデルがなく、看護教育は、専門学校から大学教育に移行したばかりの黎明期にありましたから、学生も教員も初めて体験することが多く、良くも悪くも、ひたすらもがいていました。そして、1期生が卒業を迎えたときは、色、味、形のどれをとってもふぞろいの林檎を育ててしまったと思いました。

しかし、最近、驚くのは、1期生、2期生の臨床での活躍ぶりです。医療大の卒業生は快活で、たくましく、チームワークを大切にしますので、臨床で大成するという評価をいただくことが多いのです。リーダーとなる人、認定看護師や専門看護師などスペシャリストも確実に増えてきました。

今思うのは、粒ぞろいの林檎などという画一化をはからず、学生の個性を愛する教育が、看護福祉学部には根づいていており、人をハッピーにする、いいあんばいの林檎を出荷できているのだと思います。

また、私はこの大学で、病気の不確かさという研究テーマに出会うことができました。病気になると行く末が見通せず、確かな情報や将来を求めたくなります。しかし、実は、この世の中に、一つとして確かなものはなく、すべてのものは非線形に揺らぎながら変化しているのです。これまで、学生のこと、学部運営のこと、研究のこと、カオスに陥ったこともありましたが、身も心も大きく揺れ動かされた日々が、今は一番の思い出です。

気がついたら自分の好きなことに熱中している私につきあってくれた学生、同僚の先生、職員の方がいたから、無事定年を迎えることができました。素晴らしい日々をありがとうございます。心から感謝いたします。



看護福祉学部 教授
花岡 眞佐子

1993年4月、看護福祉学部の開設と同時に助教授として赴任し、この3月末でちょうど21年になります。これまで大きな事故もなく、健康に過ごせたのは、多くの皆様からのご指導ご支援のおかげと、深く感謝しております。この紙面を借りて、私を支えてくださいました教職員および卒業生の皆さんにお礼を申し上げます。

看護福祉学部の開設時は、入学式、宿泊オリエンテーションが終わると同時に、私たち実践基礎看護学領域は1年生の授業がスタートし、教員同士はもちろん、学生との交流も充分でない状態からすべてが始まりました。見知らぬ人々との空間の中で、時間だけがあわただしく過ぎた…と、当時、私の教育歴は17年でしたが、看護専門学校と看護短期大学の教育経験であり、3年間の看護師養成教育に限界を感じていました。ですから、4年間の高等教育で学生さんはどのように変化するのだろうか、教師は看護学という学問をどのように教えるのだろうか…と不安が渦巻いていました。当時の上司であった池川清子先生(元神

戸市看護大学学長)は、ご自身の著書『看護-生きられる世界の実践知-』にもとづいて、人間的対象とする看護学を解き明かしてくださいました。私はその授業に参加して、改めて「看護実践の教育プログラム」という研究テーマを自覚することができました。

また、男子学生に看護学を教えるのも初めての経験でした。5期生(1997年入学)は4名でしたが、それ以外は毎年10名から15名の男子学生が入学してきました。開設当初は、教室の一番後ろ一列に並んだ男子学生が何となく気になりつつ授業を進めましたが、現在は女子学生の中に混じる形で着席し、私も学生も男女共学に慣れてきたように感じます。

この3月に看護福祉学部の18期生が卒業します。この数年間、大学院や認定看護師研修センターに卒業生が戻ってきました。次世代の教員のもとで、看護福祉学部および看護福祉学研究科がさらなる発展をとげること心から願っております。



心理科学部 教授
小野 滋男

1985年4月に音別の教養部に赴任して以来早いもので29年たちました。わずか4ヶ月強で当別へ移転し、また8年前にあいの里に移籍しましたので、本学では珍しい移動の体験者となりました。この間、教養部の改称、校名の変更、学部分属(当初看護福祉学部)を経験し、8年前から心理科学部言語聴覚療法学科に所属と、これまで余り例がないことだと思います。この間担当した科目は、人間学や医療哲学と一時変えたものの哲学を主軸とし、さらにドイツ語を15年間担当しました。近年は、全学基礎科目の哲学、医療倫理の他、教職科目(福祉哲学)、言語聴覚療法学科で卒業研究のゼミ(専門職倫理)を担当してきました。これに看護福祉学研究科の看護倫理もあわせると、長いこといろいろな科目をもってきたと正直驚いています。

ただ長いだけで、何やら慌ただしい限りの私の本学での教員生活ではありましたが、同僚、学生をはじめ多くの方たちに支えられ、今日までやってこられたものと感謝申し上げます。

かつて医療系大学への赴任という不安を口にした私に、一人でも講義を聴こうとする学生がいる限り、全力を尽くせと背中を押して下さった印具徹先生(元聖母被昇天学院女子短期大学学長)の師恩に深く感謝するものです。この29年間、悩み多き教員、学究生活のなか、荒れ狂う航海のいわば羅針盤となりました。先生からの手紙の最後に必ず書き添えられた「神のご加護を」という言葉を、先生の愛情深い眼差しと共に今も忘れることはできません。

恩師のように、学生たちを本当に愛情深く見守り、その導き手となったのか、疑わしい限りではありますが、それにもましてこれからも多くの人々との交流のなかで、共に歩み、成長してゆけたらよいと思います。哲学の基本的な姿勢を失わず、これからも問い続け、思考し続けてゆく所存です。

最後になりましたが、皆様のご健勝、ご多幸を、そして本学のますますのご発展をお祈り申し上げます。



看護福祉学部 准教授
佐々木 明員

以上の諸先生の他、看護福祉学部臨床福祉学科に6年間在職されました、佐々木 明員准教授が定年により退職されます。ありがとうございました。

With heartfelt thanks,

薬学部

(創立年:1979年 会員数:4,900名)



薬学部
同窓会会長

田中 稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、全国16の支部(道内6、道外10支部)で活動を行っておりますが、近年は会員数の増加に伴い支部の細分化の動きが出ているところであります。各支部におきましては、医療薬学セミナーと同時に総会や懇親会を毎年開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところでありますが、最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催を行っている支部もあり学部の枠を超えた活動が始まっております。また、全国規模では、毎年開催される日本薬剤師会学術大会において、開催地の支部が当番幹事となり、懇親会とセミナーを開催しております。昨年は大阪大会で関西支部が中心となり、全国から約80名の卒業生が集まり情報交換と懇親を深めることができました。同窓会の活動は高のように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高

めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるような支部役員の協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、大学への寄与に関しては、在学生も同窓会の準会員としておりますので、入学時に行われる定山温泉での宿泊研修にも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しているところであります。また北海道薬学大会での発表の支援や同窓会が主催するセミナーにも参加できるよう準備を進めているところであります。このように我々同窓会としても、入学時から学生に対して支援を行い、大学に寄与できるように努力してまいりたいと考えております。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~phalumni/>

歯学部

(創立年:1984年 会員数:約2,800名)



歯学部
同窓会会長

蓑輪 隆宏

学園関係者の皆様におかれましては、益々清栄の段お喜び申し上げますとともに、歯学部同窓会の会務運営に対し格別のご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

会員の親睦と学部の発展に寄与することを主な目的として本会が設立されたのは1984年のことでした。

光陰矢のごとし。と申しますが、早いもので今年、設立30年を迎えます。

この間、我々を取り巻く歯科界の環境は大きく変化し厳しさを増しましたが、その反面、国民の口腔の状況は30年前より明らかに良くなりました。

この口腔の健康の維持、増進に私共、本学卒業生が歯科医師の一人として関わったことはとても嬉しいことであり誇りであります。

このように歯科医師として社会に貢献できた喜びや誇りを持たれたのは歯科医師になれたからであります。改めて我々を歯科医師に育て上げてくれた母校

の存在に感謝致します。

本会はこの感謝の気持ちを形に表したく、COME BACK HOME -30年の軌跡に感謝、さらなる未来へのテーマで本会設立30周年記念事業を本年9月に開催させていただきます。

この節目の事業開催が本会設立目的の再確認の場になればと考えております。

新たな30年に向けてこれから仲間とともに明るく、楽しく、逞しく頑張りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~d-alumni/dousokai-honbu@clock.ocn.ne.jp>
事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069 FAX 011-299-9609

看護福祉学部/看護学科・札幌医療福祉専門学校/看護学科

(創立年:1997年 会員数:約2,000名)



看護学科
同窓会会長

川村 武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、今年度で17年目を迎えました。また、昨年度、看護福祉学部は創設20周年を迎え、新たな一歩を踏み出し始めました。ひとえに卒業生の皆さまを始め、大学並びに諸関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることに感謝しております。

主な活動内容としては、臨床福祉学科と協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナーと看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催する同窓会連絡協議会や北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を卒業生の皆さんにお伝えするものとして会報誌(Fukueikai)の発行やホームページの運営、そして同窓生同士の繋がりを保つものとして福慧会会員名簿の発行を3年毎に行っております。そして、同窓会活動について検討する場として同窓会理事会を定期的に開催しており、活動の幅は年々広がりをみせています。

今年度は学部長の交替をはじめ、本学部が創設されてからの21年間、看護の発展と学生の育成に心血を注がれてきた先生たちのご退職など、学内において大きな変化がありました。17年前、会員名簿の管理やクラス会の開

催の呼びかけなど、ごく身近な活動から開始した同窓会活動ですが、今では会員数は2,000名を超え、ここ数年からは他学部の同窓会とともに活動する機会を持つまでになりました。会員数の増加や活動の広がりとともに感じられるようになってきたことは、同窓会活動にも変化が求められていることです。「同窓会とは何か」「同窓会活動が目指すものは何か」について、今こそ考えて行動することが必要な時期に差し掛かっているように感じる今日この頃です。

これからも様々な場所で奮闘している同窓生の皆さんの縦と横の繋がりを大切に紡ぐ活動を続けていきたいと考えております。各期の代表である幹事と理事一同で常に足下を見直していきながら、同窓生同士の交流と学校との繋がりを大切にした同窓会を目指して、これからも活動を盛り立てていきたいと考えております。随時、ホームページや会報誌をとおして活動状況をお伝えしておりますので是非ご覧ください。皆さまからのご意見やご要望をお待ちしております。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~kango/kango@hoku-iryu-u.ac.jp>

看護福祉学部/臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校/介護福祉学科

(創立年:2000年 会員数:約2,000名)



臨床福祉学科
同窓会会長

小畑 友希

今年度の同窓会活動は、これまでの蓄積が形となり繋がりはじめた年でありました。

同窓会セミナー(5月)は、近年話題となっている「エンディングノートの綴り方講座」と題して開催し、同窓生だけでなく一般の参加もあり有意義な時間を持つことができました。学部学会(9月)では、「認知症ケアと他職種連携」のシンポジストとして、後藤英彰副会長が発表し専門研修の一役を担いました。また、今年度から「コラボ☆講演会」(3月)に本格的に参画させていただき、他学部同窓会と連携した取り組みを行っています。ホームページも充実してきて

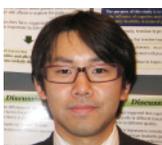
おり、特に「リレーエッセイ」のページは、懐かしのあの同級生や先輩の様子がかげます。ぜひアクセスしてみてください。国家試験対策講座は、卒業生に試験勉強のコツや対策などを紹介してもらう内容で2年前から始めました。今年はきっと合格者が増えることをご期待ください!

これらの活動は、同窓生をはじめ多くの関係者の皆様方に支えていただき成り立っています。この場をお借りして心より感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryu-u.ac.jp

心理科学部/臨床心理学科

(創立年:2006年 会員数:約500名)



臨床心理学科
同窓会会長

本谷 亮

平素、同窓会活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

役員9人体制での運営も2年目に入り、情報網や協力体制が構築され、活動に幅が増しました。今年度も同窓会セミナーの企画、実施、および会報誌の作成、発行を活動の柱として行って参りました。今年度のセミナーは、6月(第1回)に障害者スポーツの領域でご高名な及川晋平先生をお招きし、「変わりゆく障害者スポーツの世界 ～NO EXCUSEの取り組みとロンドンパラリンピックでの発見を通して～」というテーマで講演いただきました。同窓生の参加者に加えて、在学生も多数参加され、同窓生同士の交流に加えて、同窓生と在学生の縦のつながりが生まれたことは大きな収穫でした。また、3月(第2回)のセミナーでは、本学講師でおられた高瀬由嗣先生に「心理アセスメント業務における科学的接近法と現象学的接近法」のテーマで講演いただく予定です。同窓会セミナーでは、来年度も一般向け、専門職向けの2回のセミナーを企画しております。

facebookやlineなどのSNSが普及することで、これまで連絡をとらなかった友人・知人、あるいは遠方の方との交流が可能となるなど情報交換の利便性は上がりました。一方で、直接会うことによって得られる情報や深まる関係性もありません。紙面のような形として残る資料の存在もまた人と人との交流には重要です。本同窓会は、後者の点でも同窓生同士を結ぶ活動をして参りたいと思っております。大きな改革は難しいかもしれませんが、地道でも着実な活動を続けるとともに、専門職のみならず一般職への就職も多いという臨床心理学科同窓生の多様性を十分に活かしながら、今後も同窓生の満足につながるよう活動を企画し、運営を進めていきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~p.dousou/shinri-dousokai@hotmail.co.jp>



言語聴覚療法学科
同窓会会長

伊藤 健

あいの里ST会(言語聴覚療法学科同窓会)は前身の札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科同窓会から通算し創立20周年目を迎えました。この間、脈々とあいの里ST会が成長し活動を行えたのも、現在全国各地で活躍している、同窓生をはじめとした皆様のご理解とご尽力の結果によるものと厚くお礼申し上げます。

今年は診療報酬改定の年です。超少子高齢社会を迎えるにあたり今後を見据えた内容へ改定されることが予想されます。脳血管疾患等リハビリテーション料(廃用症候群に対する)の見直しや、摂食機能療法(胃瘻増設患者に対する)の見直しの中には専従の言語聴覚士が1名以上配置される施設であり、リハビリを実施した患者全体の35%以上が経口摂取可能になるように回復させるなど具体的な数値が明記される予定です。つまり今後は、STが摂食機能療法などの言語聴覚療法を提供した際には、リハビリを実施したことで患者様が改善したことを裏付けることが可能な具体的かつ客観的なデータ(数値)の提示が求められる医療へと変わってくると考えられます。厳しい医療情勢であることは変わりませんが、医療に携わる仕事をしているからにはリハビリを必要とする患者様に適切なリハビリの提供をしていくことが大切であると思います。

今年も、役員会の実施、定例の総会開催や会報発行、「言語聴覚療法学科公開講座」、北海道医療大学同窓会コラボ講演会、各同窓会との「同窓会連絡協議会」の開催、さらなる同窓会ホームページの充実、ネットワーク形成など一つ一つではありますが、今できることを確実に改良・修正をし、同窓会活動の活性化を図っていきたくと考えております。

これからも大学や他学部・学科同窓会との繋がりを大切に、今後さらに、言語聴覚士の“北の拠点”として運営努力を重ねていきたいと考えております。

st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	伊藤 裕康(14)	☎0166-35-5201
十勝支部	中村 章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	小林 隆宏(8)	☎0138-46-4651
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
オホーツク支部	新井 俊(10)	☎0157-31-3310
青森支部	三上 章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0282-27-2264
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-43-1151
神奈川県支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	新井 淑子(1)	☎078-261-2231
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	加藤 友一(4)	かとう歯科医院 ☎0134-23-8348
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内 享(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	宮川 和亮(5)	宮川歯科クリニック ☎0198-23-1070
宮城県支部	佐々木 隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀 俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	早坂 弘(4)	早坂歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦 博文(2)	秦病院 歯科 ☎0294-36-2551
栃木県支部	斎藤 真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	上野 洋(5)	上野歯科医院 ☎048-756-4499
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野 善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平 暁(5)	みやひら歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	白壁 正光(8)	しらかべ歯科医院 ☎0555-72-4182
富山県支部	藤川 晃(5)	藤川歯科医院 ☎076-483-2231
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂歯科医院 ☎025-723-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	相模 宣伸(5)	サガミ歯科医院 ☎075-311-2773
大阪府支部	西 一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	早志 卓展(6)	たかひろデンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部 ☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3688)担当:明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部 ☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年 正会員数:約1,000名、準会員:23名〉



歯科衛生士専門学校
同窓会会長

梶 美奈子

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと拝察致します。

また、日頃は当会の活動・運営に関しまして、何かとご指導・ご協力賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

現在同窓会員数は、1,000人を超えて同窓会の活動も徐々に充実して参りました。しかし、毎年開催されるセミナーや総会でお会いできるのは皆様顔なじみの方々が多く、なかなか若い卒業生や同窓会員に参加していただけていないのが現状です。セミナーの内容や講師選出につきましても役員総出で吟味しておりますが、是非会員の皆様からのご意見やご要望を賜りたいと考えております。また、2013年の新しい試みとして9月の総会に合わせて同窓会員の為の懇

親会を企画しました。今後も継続して行く所存ですので皆様お気軽にご参加いただきたいと思います。日頃の仕事の悩み、あるいは子育てに一段落して仕事に復帰したい方など情報交換に最適な機会になると思います。

同窓会会員並びに卒業生の皆様におかれましては、「母校とは、遠くにおいて思うもの」ではなく、本学・同窓会の催し物に、是非共にご参加頂き初々しい学生時代を思い出していただければ幸いです。

今後も変わらないご支援とご協力をお願いし、ご挨拶と致します。

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp>

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・
公開講座に関するお問い合わせ先

広報・教育事業部
教育研究推進課 ☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

2014年度 入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試の志願者数は増加。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、昨年度より11名増え、3,246名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。本年度は、リハビリテーション科学部の受験も可能になり、志願者数は、昨年度より772名増え、2,316名でした。

編入学2期に18名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で18名の志願がありました。

2014年度 編入学試験(2期)結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	1(0)	1(1)	0(0)	—(—)
	一般		5(4)	5(4)	3(3)	1.7(1.3)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名	6(2)	5(1)	5(1)	1.0(1.0)
	3年次	(若干名)	0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	1(3)	1(3)	1(3)	1.0(1.0)
	一般		0(3)	—(3)	—(3)	—(1.0)
●臨床福祉学科	社会人		0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	3(3)	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
指定校			0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
			0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
心理学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	(若干名)	0(1)	—(1)	—(1)	—(1.0)
●言語聴覚療法学科	社会人	3(3)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	一般		1(0)	1(—)	1(—)	1.0(—)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	若干名	0(0)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般	(若干名)	3(—)	3(—)	1(—)	3.0(—)
●作業療法学科	社会人	3(3)	0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
	一般		0(—)	—(—)	—(—)	—(—)
合計		—(—)	18(14)	17(13)	12(12)	1.4(1.1)

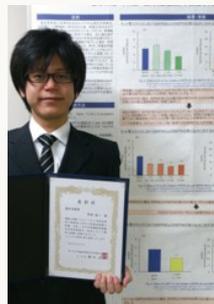
2014年度 一般・センター前期入試結果

※()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	
薬学部 ●薬学科	一般	1/30	242(246)	235(244)	109(121)	3.8(3.4)	
	前期入試	1/31	65(65)	189(174)	179(164)		
	センター	A	15(15)	267(281)	267(281)	64(56)	4.2(5.0)
	前期入試	B	10(10)	130(101)	130(101)	40(35)	3.3(2.9)
歯学部 ●歯学科	一般	1/30	60(47)	57(43)	65(44)	1.6(1.5)	
	前期入試	1/31	25(25)	51(26)	46(23)		
	センター	A	5(5)	166(130)	166(130)	150(115)	1.1(1.1)
	前期入試	B	3(3)	62(30)	62(30)	58(28)	1.1(1.1)
看護福祉学部 ●看護学科	一般	1/30	378(400)	364(388)	101(95)	6.7(8.0)	
	前期入試	1/31	40(40)	331(380)	316(371)		
	センター	A	8(8)	226(308)	226(308)	53(42)	4.3(7.3)
	前期入試	B	6(6)	95(118)	95(118)	30(31)	3.2(3.8)
●臨床福祉学科	一般	1/30	163(162)	160(159)	179(178)	1.7(1.8)	
	前期入試	1/31	23(23)	147(159)	142(155)		
	センター	A	6(6)	119(103)	119(103)	102(75)	1.2(1.4)
	前期入試	B	4(4)	91(71)	91(71)	90(67)	1.0(1.1)
心理学部 ●臨床心理学科	一般	1/30	212(182)	209(179)	116(115)	3.3(3.0)	
	前期入試	1/31	24(27)	183(169)	175(165)		
	センター	A	8(8)	150(134)	150(134)	58(58)	2.6(2.3)
	前期入試	B	6(7)	121(96)	121(96)	50(53)	2.4(1.8)
●言語聴覚療法学科	一般	1/30	177(168)	173(166)	82(81)	4.0(4.0)	
	前期入試	1/31	14(14)	162(159)	157(154)		
	センター	A	8(8)	131(107)	131(107)	60(47)	1.9(2.3)
	前期入試	B	6(6)	88(65)	88(65)	46(38)	2.2(1.8)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般	1/30	254(257)	253(256)	62(89)	7.2(5.1)	
	前期入試	1/31	30(43)	192(207)	191(202)		
	センター	A	7(—)	190(—)	190(—)	30(—)	6.3(—)
	前期入試	B	6(—)	150(—)	150(—)	24(—)	6.3(—)
●作業療法学科	一般	1/30	275(268)	270(266)	81(106)	6.1(4.7)	
	前期入試	1/31	14(19)	230(231)	225(227)		
	センター	A	4(—)	200(—)	200(—)	51(—)	3.9(—)
	前期入試	B	3(—)	130(—)	130(—)	30(—)	4.3(—)
合計	一般	1/30	1,761(1,730)	1,721(1,701)	795(829)	4.0(3.8)	
	前期入試	1/31	235(256)	1,485(1,505)	1,431(1,461)		
	センター	A	61(50)	1,449(1,063)	1,449(1,063)	568(393)	2.6(2.7)
	前期入試	B	44(36)	867(481)	867(481)	368(252)	2.4(1.9)

「第7回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2013」で、薬学部薬剤学講座の市村助教を中心とする研究が優秀演題賞を受賞。

平成25年10月5日・6日に広島国際会議場で開催された「第7回 日本腎臓病薬物療法学会 学術集会・総会2013」

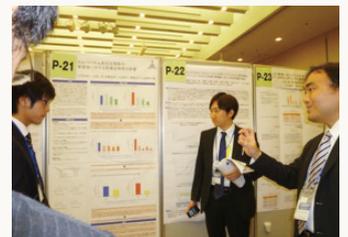


において、本学薬学部薬剤学講座(薬剤学)の市村助教を中心とする「カルバペネム系抗生物質の腎排泄に対する尿毒症物質の影響」が優秀演題賞に選ばれました。

この研究は、血液透析患者の治療薬の生体内運命に密接に影響する可能性が指摘されている、患者体内に蓄

積する様々な尿毒症物質のうちアニオン性尿毒症物質について、臨床で使用頻度の高いカルバペネム系抗生物質の腎排泄に対する影響を、ラット腎スライス法にて検討したもので、アニオン性尿毒症物質の中に、薬物の腎尿管分泌に関与するトランスポーターを強力に阻害するものが存在するとの知見を得たものです。

この知見は、アニオン性尿毒症物質が様々な薬物の腎排泄を阻害することで、治療効果や副作用の発現に密接に関与することを示唆するもので、近年、増加の一途をたどり、日本国内では現在30万人を超えている血液透析患者のみならず慢性腎臓病患者における医薬品の適正使用に向けて、臨床重要な研究成果であると評価されました。



左から薬学部薬剤学講座(薬剤学)の齊藤教授、市村助教、第6学年村部さん、小田講師

札幌市立高等学校との連携事業 平成25年度看護職・リハビリ職体験学習プログラムを実施。

平成26年1月7日(火)、札幌市立高校(札幌開成高等学校、札幌清田高等学校、札幌啓北商業高等学校、札幌新川高等学校、札幌平岸高等学校、札幌藻岩高等学校)の学生74名が本学を訪問しました。昨年に引き続き、2度目となるこの大学訪問は、大学と高等学校の教育活動(授業等)に対する相互支援を目的として行われたプログラムです。

看護師、理学療法士、作業療法士と3分野に分かれ、午前中は模擬講義を、午後からは体験実習を行いました。職業についての体験など大学ならではの講義に積極的に参加する姿が見受けられました。

今回の体験学習プログラムの経験を元に将来の進路選択・決定の助力となれば幸いです。

体験メニュー

- **看護師**
模擬講義：自分の生活を振り返り健康になろう！
体験実習：身体機能を測定してみよう！
- **理学療法士**
模擬講義：理学療法と筋肉
～筋力測定とストレッチを通じて～
体験実習：同テーマで体験実習
- **作業療法士**
模擬講義：作業することで楽しくなる
～作業の意味を考えよう～
体験実習：同テーマで体験実習



札幌開成高等学校特別講義「プレ先端科学特論」を実施。

平成26年1月8日(水)、9日(木)の2日間にわたり、札幌開成高等学校コスモサイエンス科1年生57名を対象に特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう」。初日は本学個性健康科学研究所 太田亨教授による遺伝子の基礎知識についての講義と、実際に自分の遺伝子を解析する実験を行いました。2日目は琉球大学大学院 医学研究科遺伝医学講座の要匡准教授による講義「PCRで倍返し、NGSで千倍返し～身近な遺伝と最新機器によるゲノム解析の話～」の後、午後からは遺伝子解析実験の続きと結果の確認を行い、また玉ねぎからDNAを抽出する実験も行いました。最後には2日間の実験の成果について全体討議を行いました。



遺伝子解析実験や最先端の講義など、大学での授業を体験し、有意義な時間を過ごしたようでした。



サハリン・ロシア極東地域 ビジネス交流モニターツアー参加者、本学視察。

平成26年1月29日(水)に「サハリン・ロシア極東地域ビジネス交流モニターツアー」で北海道を訪れていた参加者一行5名が本学を視察しました。

このツアーは、北海道のビジネス交流促進事業として企画されたもので、1週間の滞在期間中に北海道内の民間企業や医療関連機関などをめぐり、交流創出の可能性を模索することが目的です。

本学では12月に、大学間提携を結ぶ海外大学との更なる交流促進と新たな国際事業としてロシア・サハリン州、沿海州との交流展開を目指し「国際交流推進室(Global Networking Office: GNO)」を立ち上げました。ロシアとの交流は医療・健康分野における技術協力や業務提携の検討が緒に就いたばかりです。今回のツアー受け入れは、ロシアの医療事情についての情報収集の

点でも有益なものとなりました。

当別キャンパスでは、新川学長、半田国際交流推進室長をはじめ齋藤歯学部長、古市歯科・内科クリニック院長、泉リハビリテーション科学部長、和田薬学部長が両国の医療事情などについて意見交換を行いました。施設見学では、まず、リハビリテーション科学部に設けられている最新のリハビリ実習施設「バリアフリーラボ」を見学。日本のリハビリ教育の質の高さを感じていました。

その後、札幌あいの里キャンパスに移動し、大学病院歯科部の診療室や手術室などの各施設についての説明を受け、質問を繰り返し、時間をかけて見学を行いました。大学病院の充実した歯科診療施設や設備はもちろんのこと、静かに歯科治療を受けている子供を見て、医療技術や治療環境にも高い関心を寄せていました。



充実したディスカッションの後に参加者全員で記念撮影



歯科機器や治療方法などに関する質疑応答の様子

JICA青年研修で 中央アジア・コーカサス研修生来学。

2013年度JICA青年研修(職業訓練教育コース)で来日している7名が、平成26年2月7日(金)に本学を訪れました。

本コース参加者の本学での研修内容については、研修のコーディネーター(北海道YMCA)から事前に「看護職の人材育成」というテーマの希望があったため、本学での看護職育成と資格取得に向けた特徴のある取り組みを交えて平看護福祉学部長、三国看護学部長からの説明がありました。

今回、来学した研修生の母国は、ウズベキスタン、タジキスタン、アゼルバイジャンの3カ国で、日本との国情や制度の違いはあるものの、人材育成制度にとどまらず教育制度や資格取得プロセス、学位取得にも非常に強い興味を持っているようでした。

研修生たちは午後からの予定があったため、本学での研修は予定時間の11時30分で終了しましたが、時間を惜しむように質問をしたり、施設の見学を行っていました。



最高だった学生時代

看護福祉学部
看護学科

准教授 伊藤 道子



私は看護学校を卒業した年に、助産師を目指して国立大蔵病院附属看護助産学校助産婦科へ進学しました。母校は平成10年3月に閉校し、現在その場所には国立成育医療研究センターが建っています。厚生省(当時)の学校なのに、「大蔵省」とどんな関係があるんだろうと思ってたよね、と入学後に同級生と話していたのを記憶しています。国立病院で最初に設立された助産課程だと知ったのは入学してからです。北海道から沖縄まで学生が集まっていました。

就学中の1年間、世田谷区大蔵の広大な病院敷地内にある全寮制の学生自治寮で24名の学生の一人として過ごしました。秋桜寮と命名された寮は、私が入学する数年前に教育主事を務められた松本八重子先生が、助産学生の実習のために設計段階から携わられた建物だったと伺っています。二人部屋でしたが、居室の各ベッドにインターフォンが設置さ

れていました。夜間のオンコール分娩実習の連絡は就寝中のベッドで直接受けて、心臓をバクバクさせながら病棟へ直走ったものでした。

大蔵出身の卒業生でよく話題に上るのは、保健教育のグループワークです。母親学級、退院指導、家族計画のいずれかのチームに所属し、1年間計画立案・実施・評価を繰り返す学習活動です。私は、家族計画family planningチームに入りました。寮には、学生全員が集合できる部屋の他に、少人数が利用できる部屋がいくつかありました。大所帯の母親学級チームは大きな部屋で、少人数の家族計画チームは小さな部屋で、夕食後から夜中まで何度も話し合いました。プログラム案や説明原稿、媒体を提出した日は、毎回約2時間授業後の夕方から当時の教育主事青山広子先生から指導を受け、メンバー皆がうなだれて半分涙目になりながら寮に戻り、また深夜まで話し合うという日々でした。その間にオンコール実習をこなしていたのですから、我ながら驚きです。今振り返れば、若さだけでなく、24時間生活と学習を共にしてきた同級生が常に側にいてくれて、支え合っ

ていたからできたのだと思います。

北海道での看護師国家試験の1週間前、再結成したロキシー・ミュージックという洋楽バンドのコンサートを観たくて、アルバイトを貯めて日本武道館へ行ってしまふほど、中学時代から国内外のロック・ミュージックが好きだった私ですが、さすがにそのような余裕は全くありませんでした。夜は門限があったので、たまに週末日中の渋谷エッグマンでのトークライブに行くのが唯一の楽しみでした。このように回顧してみると、この一年間の時間経験は、気づかないうちに世間知らずの自分を逞しくさせたようです。



大蔵病院職員のパレーボール大会に学生として参加(後列右から2人目が私)

私の学生時代

今、大学の教壇に立てられている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は伊藤准教授と本家教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
作業療法学科

教授 本家 寿洋



私の学生時代は、作業療法という専門職を学ぶ上で、「何の悔いもない最高の学生時代であった」との一言に尽きます。そう思えるのはなぜなのかを簡潔に述べていきたいと思います。

～ 最高の恩師との出会い ～

「みなさんは作業療法学科に在籍しているので、他の領域への関心は今すぐあきらめて学業に集中してください」の言葉は、新学期早々に担任教員がおっしゃってくださった一言です。進路の迷いがあった当時の私は、この恩師の一言を

きっかけに充実した学生生活を送る覚悟を決めました。またある先生は、「歌って踊れる作業療法士になりなさい」と講義で話しました。私はそれを真摯に受け止め、クラブハウスを貸し切った飲み会では、サンパホイッスルを持参して盛り上げました。北大名物のジンパ(ジンギスカンパーティーの略です)では、先生方から人との強い関係性がいかに大切かを学びました。

～ 最高の先輩・同期・後輩との出会い ～

「来週からのゴールデンウィークだが、5泊6日の北海道一周の旅に出よう。観光地にはない、自分たちで美しい景色を探す感じるツアーだ」と新歓コンパの時に先輩に誘われ、先輩4人と同期3人で旅に出ました。1日平均500～600kmを車で走破し、夜は3時まで語り、車の中で寝て、朝は7時起床し、4日目には、7時間飲まず食わずの徒歩でカムイワッカの滝を雪の中往復し、精神的・身体的にも非常に辛い旅でした。そして夏休み、再び先輩から「今度は10泊11日北海道一周キャンプの旅だ」と言われ、15人程度で出発しました。そうして、ゴールデンウィークは5泊6日、

ゴールデンウィーク5泊6日の旅～富士山にて～(右側が私)



クラブハウスを貸し切った先輩との飲み会(手前真ん中が私)



夏休みは10泊11日の旅が定例となったのです。なぜかはわかりませんが、このような大変な旅を乗り越えたおかげで、全ての経験や学問が作業療法に通じるのではないかということを感じました。

～ 激しく生きたと実感できる学生生活 ～

親からの金銭的な援助を全く受けない学生生活でしたので、月～金は、授業は休まずに、塾講師と家庭教師のバイトに明け暮れました。そして、土日は先輩・同期・後輩と時空を共有し(女性との交際は、する時間がないのでしないと決めた)、定期的に野球やバレー、フルマラソンや50kmの国際スキーマラソンへもみんなで参加して、とにかく激しく感じ、考え、動いた学生生活でした。このことから人が充実した人生を送るためには、意志をフル活動させることが重要であることを実感しました。



ジンパの写真(真ん中が私)

OB訪問

本学心理科学部開設の年に入学した中島さん。学部卒業後は修士課程に進み臨床心理士資格を取得、心理科学部1期生の誇りと責任を胸に、わが国「睡眠学」のトップランナーをめざし、今日も寝る間も惜しんで臨床・研究活動に励んでいます。

東京医科大学睡眠学寄附講座 助手

中島 俊さん

(心理科学部臨床心理学科2006年卒業、
大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程2008年修了。
2014年3月東京医科大学大学院医学研究科博士課程修了予定)



眠れない国ニッポンを救え

中島さんの専門は、いま注目の「睡眠学」です。厚生労働省によれば、日本人の5人に1人、60歳以上では3人に1人が睡眠に関する何らかの悩みをもち、「不眠症は国民病」ともいわれます。睡眠の悩みを取り上げたテレビ番組や書籍の多さからうかがえるように人々の関心も高く、中島さんが臨床活動を行う睡眠総合ケアクリニック代々木にもテレビ等の取材依頼が絶えないそうです。

中島さんは睡眠外来で不眠の改善、睡眠薬の減薬を目的としたカウンセリング(心理療法)を行っています。同時に、東京医科大学の助手、心理療法の効果を科学的に検証する研究者でもあります。臨床と研究をリンクさせ、発展の余地が大きく残るわが国の臨床心理領域を切り開くフロンティア精神旺盛な心理士です。

中島さんはこれまで多くの不眠症の悩みを心理療法で解決してきました。まだ睡眠外来のカウンセリングは保険適用外ですが、中島さんは科学的な効果の検証を進めることが保険適用につながると信じて臨床・研究活動を進めています。何年間も服用していた睡眠薬が不要になった解放感、服薬を止め安心して妊娠、出産できた幸福感…、クライアントが目前で表現してくれる心からの喜びが、厳しい道のりでも中島さんの背中を強く押してくれます。



心理療法のプログラムは生活スタイルをいねいに反映させたクライアントごとのオーダーメイド。温かな心と科学の目で結果を出していきます。



(左)同じクリニックでは、本学・坂野雄二教授ゼミ出身者が心理士として共に活躍中。越智萌子さん(左)、岡島義さん(右)も臨床家であり研究者です。

(右)臨床とその結果の科学的検証を同時進行させる中島さんのような若手心理士が、心理学という学問と医療現場との距離をぐんぐん縮めています。

ヒラメキから世界へ発信

不眠症は、その原因が睡眠時無呼吸症候群など体の病気、うつなど心の病気であれば各々専門の治療が必要ですが、それ以外のものについては心理療法の有効性が医療の現場でも認められるようになってきています。厚生労働省は薬を使わない非薬物療法に力を入れていますし、薬が効かない不眠の改善の1つ目の選択肢には認知行動療法※が挙げられています。

期待の高まりに呼応するように、中島さんは最近新しい療法を開発しました。「難治性不眠症と呼ばれる逆説性不眠症に対して有効な、世界で初めての心理療法です。現在、臨床例は十数名ですが、この春から複数の研究機関の協力で効果の検証を始めます。2~3年かけて徹底して有効性を実証します」。

逆説性不眠症とは医学的検査では睡眠の異常は認められないものの主観的には重度の不眠を訴える疾患です。開発のきっかけは2年ほど前、通常の不眠に対する認知行動療法だけでは効果が現れない難治性に対して、別の認知行動療法を組み合わせるといったアイデアがひらめいたことでした。中島さんはその直感を確信へ育て、臨床に応用し、有効性に手応えを得られました。そして、睡眠学の領域の新たな扉を開く可能性が見えてきたのです。「難治性不眠症を

減らすために力を尽くします」。ふだんはやわらかな中島さんの表情に骨っまい研究者魂が覗きました。

※精神疾患の治療として認められている精神療法。ものの考え方や受け取り方のバランスを取り問題解決の手助けをする。

日本発世界スタンダードをめざせ

中島さんは臨床心理士として、個人を超える大志を抱いています。「これまで科学的根拠に基づく心理療法の多くが海外で開発されたものでした。でも、これからは日本発の療法を輸出し世界に広げ、日本の心理学を発展させたい」。今回の心理療法の開発はそんな情熱がかたちになった一丁目です。

文系に属することの多かった心理学を医療系で、科学的視点に基づき教育し、医療現場に通用する実践力の育成をめざす、本学心理科学部開設時のパイオニア精神は、1期生・中島さんの中で使命となって輝きを増しながら燃え続けていました。近い将来、中島さんのように全国で活躍中の本学卒業生の使命の火が集まり大きな炎となって新しい時代を照らすときがきっと来るでしょう。今夜も素晴らしい夢が見られそうです。



学部2年次の九十九祭(大学祭)のソフトボール大会での1コマ。左から2人目が中島さん。この写真から11年、いまも絆は健在です。

学友会

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかる

ために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにてクラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会)
7月	北海道地区大学体育大会(体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会(体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

体育局

体育局を振り返って

体育局長 山田 哲郎(歯学部3年)



体育局の仕事は毎月の体育局の定例会の開催と進行、春にある各団体の1年間の予算をそれぞれの団体の代表者と話し合い、決定する予算面談、その予算の決算を行う決算面談が3月にあります。その他には学友会の各局長と先生方で構成される運営委員会の仕事もありました。

まず、定例会ですが、自分は人前で話すのが苦手なので、毎月の定例会の進行も大変でした。各団体への連絡を伝え、最後に毎月の体育館割を決めて終わります。予算の時期の仕事は特に大変でした。全団体が希望通りの予算というわけにはいかないもので、上手く交渉するのが難しかったです。

局長の仕事に慣れるまでは前の局長にアドバイスをもらいながらという感じで進めていきました。大きい責任の伴う体育局長という仕事でしたが、任期を終えた今振り返ると大変充実した内容の仕事で、得るものは多かったと思います。

最後になりますが活動に協力してくださった前局長や他の執行局員、学生支援課の皆さんには感謝の念でいっぱいです。1年間どうもありがとうございました。

文化局

文化局を振り返って

文化局執行部 倉本 圭輔(看護学科2年)



私は今年度の文化局長代理を務めさせていただきました。文化局は月に1度定例会を開いており、その定例会を通じて各団体の活動が円滑に行えるよう運営しています。また、11月には文化週間という各団体がそれぞれの発表を行う場を設けており、その企画や運営を行い、他にも予算面談や決算面談など、各団体がより良く活動ができるよう私たちが支援しています。

文化局の定例会一つをとっても、文化週間や予算面談などでうまく伝えたいことが伝えられなかったり、戸惑ったりした部分が多々ありましたが、私はこの文化局の活動を通して、人をまとめる難しさや責任の重さなど様々なことを学びました。活動している間は大変だったという思いでしたが、今思い返すと社会に出た時に必要なことを経験できる良い機会だったのだと思っています。

わからないことが多く不慣れなところが多々ありましたが、様々な方に支えていただき、無事1年を終えることができました。特に学生支援課の方々には様々なサポートをしていただき大変お世話になりました。ありがとうございました。

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員長 長谷川 奨忠(歯学部3年)



今回で第35回を迎えた大学祭「九十九祭」は、多くの方々のご協力により、無事に終了することができました。まずはこの場をお借りし、皆様により感謝を申し上げます。九十九祭にご協力いただいた学生、教職員の皆様をはじめ、関係企業の皆様、ご協賛いただいた企業様、そして何より九十九祭にご来場いただいたお客様の皆様、本当に

ありがとうございました。

ここ数年で私たち実行委員会は、委員数の増加、企画・運営、内容の定着、学外企業・団体との交流など、組織として成長することができました。そんな中、今回の大学祭は次の段階への転換期だったのではないかと思います。これまで私たちは、前夜祭の開催及び花火の打ち上げ、屋外でのステージ発表、雨天時の対応など、実行委員会としての真価が問われるテーマに取り組み続けてまいりました。これらにはまだ改善の余地があるものの、今回の大学祭では、ある程度の成果を得ることができたと思います。

しかしその一方で、これまで行ってきたことの限界や改

善すべき点が、顕著に感じられる大学祭でもありました。それらは一概に「良くなかった」わけではありません。「より良くなる」点が九十九祭にはあると、つまり、「九十九祭はこれからまだまだ、楽しい祭りになり得る!」ということです。

現在、実行委員会では、次回の大学祭に向け準備を進めております。これからは一人の委員という立場になりませんが、引き続き「まだまだ伸びしろのある」九十九祭に貢献していきたいと思っております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。これからも私たち実行委員会と九十九祭を、どうぞよろしく願いたします。

EDITOR'S NOTE

長く厳しい冬から少しずつですが春を感じられるようになりました。そして旅立ちの時期がやってきました。卒業生の皆さんおめでとうございます。春は若い息吹を感じる季節です。ソチ五輪で一喜一憂した記憶はまだ新しいですが、スノーボードのハーフパイプで中学生を含む若い選手のメダル獲得の活躍に驚き、その一方でレジェンドと呼ばれるベテラン葛西選手の活躍、さらには団体戦でのメダル獲得。ベテランと新人のとてもよいチームワークでの結果です。まだまだ思い起こすと胸が熱くなります。卒業してこれから新しい世界に飛び込んでいく諸君! 不安もあろうかと思いますが、周りには皆さんの先輩がしっかりとサポートしてくれます。先輩から色々な事を吸収してください。安心して良い仕事をたくさんしてください。

(T.E記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.157

STAFF ● 遠藤 泰 派上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 漆原 宏次 榎原 健一
大塚 裕之 木村 恵 杉原 佳奈 長原 利明
宮崎 隆志 園見 明美 松本 信也

発行日 ● 2014年3月13日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

